

プレスリリース

2003 年 12 月 8 日

News  
ReleaseInformación  
de PrensaPress-  
informationInformação  
de Imprensa

報道情報

INPECC  
INFO@PMALUVASiaran  
AktibarCommuniqué  
de presse

新聞信息

Presse-  
meddelelsePresse-  
information

## BASF、米ダイバーサ社からキラル中間体向け酵素の使用ライセンスを取得 ～ バイオ触媒プロセス技術のさらなる発展で広がるビジネスチャンス～

BASF (本社 ドイツ・ルートヴィヒスハーフェン)はこのほど、ダイバーサ社 (本社 :米国カリフォルニア州サンディエゴ)より、医薬中間体のバイオ触媒合成向け酵素を使用するライセンスを取得しました。この酵素を用いて BASF はバイオ触媒を生産し、それを独自のバイオ触媒プロセスのひとつに応用してキラル中間体を合成します。この酵素は、さまざまな化学品向けに、バイオ触媒とバイオプロセスの開発を目指す両社の広範な提携関係のもとで、ライセンスされた初の商品となります。

BASF 中間体本部の開発担当ディレクターのウド・ロイデは、「今回、バイオ触媒合成向け酵素の使用をライセンス契約したことは、ダイバーサ社との提携関係における記念すべき事柄です。BASF は、独自のバイオ触媒プロセス技術をさらに活用してキラル中間体を使った製品群を拡大し、お客さまからの個々のニーズに対応していきます」と述べています。BASF は要請された化合物をラボスケールから商業生産に至るまで短期間で納品し、規制や物流面でのサポートを顧客に提供しています。必要に応じて顧客との技術提携を結ぶこともあります。さらに新しい酵素のライセンスを受けたことで、バイオ触媒プロセスにおける BASF の強力な技術力が補完されることとなります。BASF は、バイオ触媒分野で 20 年以上の経験を持ち、生細胞や酵素を用いたビタミン(ビタミン B2)、アミノ酸(リジン)、ファインケミカル(キラル中間体 :ChiPros™)の生産に、バイオ触媒プロセスを使用しています。

光学活性体であるキラル 中間体は、農薬や医薬品などのライフサイエンス分野で重要な役割を担っています。厳しい規制への対応が求められる中、低毒性、高効力、製造コストの削減が期待されるキラル 中間体の需要は高まっています。BASF は同社のユニークなキラル中間体の製品群を「ChiPros™」(キプロス)という商標名で製品の差別化を図り、幅広い商品を販売しています。

例えば、光学活性アミン類、アルコール、エポキシド、酸、およびこれらの誘導体を製品として持ち、製品ポートフォリオは拡大を続けています。今回、BASF に使用が認められた酵素は、ダイバーサの DiscoveryPoint™ (ディスカバリーポイント)酵素プラットフォームのひとつから誘導されたものです。ダイバーサは、製造コストの削減と新しい中間体の開発を促進する目的で、キラル医薬品やファインケミカルのメーカーのニーズに応えるべく、これらの酵素プラットフォームを開発しました。

ダイバーサとBASFは、高機能のバイオ触媒を開発するために、2002年の初めより協力してきました。ダイバーサ社の社長兼 CEO のジェイ M. ショー H は、「BASF 社への酵素の

BASF ジャパン (株)  
コーポレートコミュニケーションズ  
住所 :〒102-8570 東京都千代田区紀尾井町 3-3  
電話 :03-3238-2376  
Fax :03-3238-2514  
http://www.basf-japan.co.jp

1

+65 6432 3684 (Corporate Communications Asia Pacific)  
+49 621 60 9 99 38 (Corporate Media Relations BASF Group)  
E-Mail: presse.kontakt@basf-ag.de



ライセンスにより、2003年の目標であった製品化を実現したことになり、当社の短期的な製品売上の拡大に貢献します。今後も継続して両者の提携関係のもとで、製品がライセンスされることを期待しています」と述べています。

News Release  
Información de Prensa  
Press-information  
Informação de Imprensa  
報道情報  
INPECC MALAYSIA  
Siaran AktiBar  
Communiqué de presse  
新聞情報  
Presse-meddelelse  
Presse-information

■ **BASF Group について**

BASF (ビーエーエスエフ)は、原油と天然ガスの他、化学品、プラスチック、高機能製品、農薬、ファインケミカル等の高付加価値製品をお客様に提供する世界の化学業界のリーディング・カンパニーです。BASFの統合生産・経営システムは、ドイツ語の「フェアプント」として知られ、同社の特異な強みであり、コスト面での優位性と競争力をもたらしています。BASFは「持続可能な発展」の基本方針に則って企業活動を行っています。2002年度は約320億ユーロ(約340億ドル)の売上高を計上し、世界で8万9000人の従業員を抱えています。BASFの株式はフランクフルト(BAS)、ロンドン(BFA)、ニューヨーク(BF)、パリ(BA)、チューリッヒ(BAS)の各株式市場において取引されています。同社のインターネットホームページアドレスは：[www.basf.com](http://www.basf.com)です。BASF ジャパン(株)のインターネットホームページのアドレスは：[www.basf-japan.co.jp](http://www.basf-japan.co.jp)です。

■ **ダイバーサ社について**

ダイバーサ社(ナスダック:DVSA)は、独自のゲノム技術を応用し、遺伝子および遺伝子経路に関する迅速な発見と新製品の最適化を実現するリーディングカンパニーです。同社は、最適なモノクローン抗体や経口活性薬など医薬品に応用でき商業的に価値のある分子や、農業、化学、そして工業用途に応用できる酵素や微小分子などの発見、開発、生産に使用する統合技術を開発しています。また、ダウケミカル(The Dow Chemical Company)、デュポン・バイオベースト・マテリアルズ(DuPont Bio-Based Materials)、ジボダン・フレーバー(Givaudan Flavors Corporation)、グラクソ・スミスクライン(GlaxoSmithKline plc)、インビトロジェン・コーポレーション(Invitrogen Corporation)、シンジェンタ(Syngenta AG)の系列会社など、数多くの業界のリーディングカンパニーと提携関係や合併会社を設立しています。詳細については、ダイバーサのウェブサイト([www.diversa.com](http://www.diversa.com))をご覧ください。

■ **本件に関するお問合せ先**

BASF ジャパン(株)  
コーポレート・コミュニケーションズ  
小池  
TEL 03-3238-2376

BASF ジャパン(株)  
コーポレート・コミュニケーションズ  
住所 :〒102-8570 東京都千代田区紀尾井町 3-3  
電話 :03-3238-2376 +65 6432 3684 (Corporate Communications Asia Pacific)  
Fax :03-3238-2514 +49 621 60 9 99 38 (Corporate Media Relations BASF Group)  
<http://www.basf-japan.co.jp> E-Mail: [presse.kontakt@basf-ag.de](mailto:presse.kontakt@basf-ag.de)

